



聴覚障害教育			単位数	履修方法	配当年次
			4	R or SR	2年以上
科目コード	E F 3 7 3 0	担当教員	菅井 邦明		

■科目の内容

聴覚障害者教育を学ぶには、聴覚障害に関する生物学的、音声音響学的条件と障害補償についての知識、また幼児段階ではコミュニケーション・言語発達、保育・養育環境条件に関する知識を学ぶ必要があります。さらに学校教育段階では教育内容と指導に関する知識・技術、そして学習指導要領の学習が重要になります。

特別支援教育では、児童のニーズの把握の上で「個別的教育支援計画」を作成し指導を展開することになります。現実の教育実践の中では、ニーズ把握・計画・指導・評価が一連の過程として、瞬間瞬間、一時限内、学期内、年間で繰り返されます。その過程では、知識・指導技術等に関し、新しく工夫・開発する必要もでてきます。この科目では、1単位めでは、児童のニーズや実態把握に必要な聴覚面の知識を、2単位めは、教育課程と指導法を知り、個別教育指導計画に関連する条件と指導技術、3単位めでは、聴覚障害児に特徴的な指導技術について学習します。

■到達目標

- 1) 人間行動発達の系譜を踏まえ、聴覚障害教育がどのような条件の人を育てるのかを理解し、特別支援教育の意味や意義を説明できる。
- 2) コミュニケーション成立の条件と言語発達の条件を説明できる。
- 3) 聴覚障害の実態を音響学・聴覚生理学・言語学・聴覚補償機器・コミュニケーションの知識から説明し、聴覚障害児に特に必要な指導技術を説明できる。
- 4) 教育課程と指導法の特徴を整理・説明できる。

■教科書

- 1) 篠田達明監修、今野正良ほか編『視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育（改訂2版）』金芳堂、2011年
 - 2) 菅井邦明著『早期教育における聴覚障害児・家族・専門家のコミュニケーションに関する省察』『発達・療育研究（京都社会福祉センター紀要）』10、1994年（コピーで配付）
- （最近の教科書変更時期）2011年4月より教科書1）が改訂されました。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	聴覚障害の定義と分類	・音の性質と耳の仕組みと聞こえの関係を知る。 ・聴覚障害の定義を理解する。	聞こえにくさの背景を知る。
2	聴覚障害の診断と診断システム	耳鼻科的診断と聴力検査について知る。	聴力の程度と聞こえにくさを理解する。
3	聴覚障害の療育的意義と療育システム	聴覚障害の発見と、医療と子育てのシステムと方法について理解する。	聴力の程度と会話の音域と育て方を知る。
4	疾病別の分類・原因・診断・治療・予後	伝音性難聴と感音性難聴を理解する。	補聴器と人工内耳について知る。
5	難聴児の療育	障害の理解と全人発達・コミュニケーション手段・療育方法を知る。	早期療育の内容を知る。
6	重複障害児の療育	聴覚障害と他の障害を有する子どもの実態を知る。	人間教育の基本（初期発達）を知る。
7	聴覚障害児の看護と援助	医療的ケアと家族支援を理解する。	家族支援の実態を知る。
8	聴覚障害児教育の歴史と定義	日本の聴覚障害の歴史を知る。	社会と教育の発展の関係に目を向ける。
9	聴覚障害児の就学と教育的措置	特別支援教育における就学の実態を知る。	学びの場と教育方法の関係を学ぶ。
10	聴覚障害児の教育目標と教育課程	日本の聴覚障害教育の内容を知る。	子どものニーズに対応する教育の内容と考える。
11	これからの障害児教育：特別支援教育	特別支援教育の考え方を理解する。	人権意識・科学の進歩・経済社会の発展と障害児教育を考える。
12	聴覚障害児の教育内容と教育支援法①	幼児教育段階・義務教育段階の教育について理解する。	社会参加を目指す教育を考える。
13	聴覚障害児の教育内容と教育支援法②	高等教育段階の教育について理解する。	社会参加を目指す教育を考える。
14	聴覚障害児の就労	聴覚障害者の多様な社会参加の実態を知る。	社会参加の課題を知る。
15	聴覚障害児・保護者への援助と保健サポート	児童・家族支援の実態を理解する。	家族支援の重要性を認識する。

■レポート課題

1 単位め	【説明型レポート】 下記の1) 2) 合計7つの項目についてそれぞれ約300字程度で説明しなさい。 1) ①オーディオグラムの目的・測定方法・表記の仕方 ②人間の可聴範囲（周波数で） ③一般に普通の会話は何デシベル程度、不快な大声は？ ④手話とは ⑤難聴とは 2) ①外耳から聴覚中枢までの音の伝達経路を簡略に説明しなさい。 ②難聴児療育・教育の目的を簡略に説明しなさい。
2 単位め	個別指導計画を立てる時に考慮されるべき条件を書きなさい。
3 単位め	聴覚障害教育の指導技術の特徴を説明しなさい。
4 単位め	平均聴力レベル（難聴の程度）とコミュニケーション手段の関係を説明しなさい。

■アドバイス

まず教科書2つを熟読してください。また実際に自分の指で耳を塞ぎ聞こえにくい状態を作ったり、理解不可能な外国語を20分間聞いてみたりして、聴覚障害の聞こえにくい状況を少しでも体験してください。また可能な限り聴覚障害児・者や高齢者で耳が遠いといわれる方に接してみてください。実際に聴覚障害児・者に接している受講者はその人を想定してレポートに取り組んでください。

1単位め アドバイス

教科書1) を熟読し、音声脳へ伝わる経路・言語音認知過程とその障害を簡略に整理してください。

2単位め アドバイス

教科書1), 2) を熟読し、聴覚障害教育課程と指導法の特徴を記述し、個別教育指導計画に関連する条件と指導技術を記述してください。

3単位め アドバイス

教科書1), 2) を熟読し、聴覚障害教育課程と指導法の特徴を記述し、個別教育指導計画に関連する条件と指導技術を記述してください。

4単位め アドバイス

教科書1), 2) を読んで、難聴の程度と学習可能性の高いコミュニケーション手段を整理してください。

■科目修了試験 評価基準

テキスト、レポート課題で学習したことを中心にした試験問題を、問題の内容把握、専門用語等の正確

な理解、解答内容の論旨の展開、現実の教育に関する実践的理解などを基準にして総合的に判断している。

■参考図書

- 1) 原田泰・生田目美紀著『ゆびもじ練習あいうえお』小学館, 2004年 (CD-ROM教材)
- 2) 米内山明宏監修『はじめての手話入門』ナツメ社, 2005年 (DVD付き)
- 3) 原田恵子・広瀬千恵子著『二人の難聴児を育てて——わが子に学んだ日々』聴覚障害児と共に歩む会・トライアングル, 1996年
- 4) 岩立志津夫・小椋たみ子編著『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房, 2005年
- 5) ドナルド・F・ムーアズ デヴィッド・S・マーティン編 松藤みどり, 長南浩人, 中山哲志訳『聴覚障害児の学力を伸ばす教育』明石書店, 2010年